

24日 遺構・遺物も検出されないため、X軸方向J列とY軸方向5列の土層セクションを作成し、調査を終了する。

#### 4 層 序

遺跡はほぼ平坦であるため、土層の堆積状態は一様であるが、北東部では傾斜面となるためやや厚く堆積している。比較的単純な層序を示す。

第I層黒色土、いわゆる表土（耕作土）で15～30mmの厚さである。

第II層黒色土、I層より黒色の強い色調を呈し、砂質性が強くザラザラしている。厚さ15～20cmで西南部では余り認められない。

第III層褐色土、部分的には黄褐色の色調を呈し、砂礫質の土層である。比較的薄く堆積し10cm前後である。

第IV層黒褐色土、微砂質性でやや固くしまっている。厚さは20～30cmで7-R・Sグリッド付近では厚く堆積している。

第V層黄褐色土、砂質で若干の小自然礫を含む。

#### 5 遺物（土器）

5-Lグリッド内出土土器。復元の結果同一個体のやや大形の破片となる。胎土は石英・砂粒を多く含む、器面はザラザラとし、色調は褐色を呈する。地文を縄文とする粗製土器である。時期は縄文時代後期の後半である。

### 第3節 No.36（辻ノ堂A）遺跡

1 所在地 米沢市字牛森大字辻ノ堂5004

2 調査員 佐藤鎮雄・佐藤正俊

#### 3 調査の概要

本遺跡は、水田耕作と土取り削平により、大半が破壊されている現状であり、中央部畑地と長楯遺跡に隣接地点及水田部分に3グリッドを設定し調査した。グリッド設定は、Y軸方向N-53-Wで、X軸方向にアルファベット記号（A～Z）、Y軸方向に数字番号（1～65）配し、1グリッドを2×2mとした。

中央部畑地は、東部O-7グリッド付近はプライマリな状態が認められ、層序は第I層から第V層に分けられる。西部では宅地と畑地耕作のため、第III層褐色土まで攪乱されている。水田部は、畑地より1m削平されているため、現状をとどめず、遺構の検出は困難である。長楯遺跡と隣接する地点は、O-17グリッド付近と同様にプライマリな状態

で残存している。U-62・65グリッドでは第Ⅲ層中に自然礫が多量に検出され、第Ⅴ層まで掘り込み、南北に走る溝状の不明遺構が認められた。溝底で青砂と小礫を含むためおそらく、かつての小河川と考えられる。

全体の層序は、No.35遺跡とほぼ同様であり、遺物・遺構は検出されず。調査期日は、10月25日に開始し、10月31日に終了した。

#### 第4節 No.37 (辻ノ堂B) 遺跡

- 1 所在地 米沢市字牛森大字辻ノ堂5025
- 2 調査員 佐藤鎮雄・佐藤正俊
- 3 調査の経過

今回の調査区域は、主要幹線道南北線が遺跡東側半分を通るため、東部を中心に調査を進めた。調査の方法はグリッド方式を採用し、グリッドのY軸主軸を幹線道南北線軸に合せ、X軸はそれに直交させた。Y軸方向N-13<sup>2</sup>-WでX軸はA-Y・ア-ノ。Y軸は1~40とし、2×2mのグリッドを設定した(第三十八図版)。

調査の期日は、11月1日開始し、11月25日に調査を終了する。

1日~8日 東側の半分にX軸方向ア-ノまでグリッドを設定し、ア-10~30、ア-ノ-20グリッドと2m置に掘り始め、さらにア-ノ-28グリッドを同様に調査を行い、遺跡の層序、遺構・遺物の分布状態を確認する。その結果、コ-25、サ-22、ス-20グリッドにおいて、第Ⅲ層を込み、覆土が上部で黒色土、下部で褐色土(砂礫層)の、ほぼ東西に延びる溝状の落ち込みを確認する。なおこの地点は、第Ⅲ層まで攪乱され客土が行なわれていた。遺物は発見されず、人為的な遺構も検出されず。7日は、X軸ア列方向の土層セクションを測図する。

9日~17日 さらに西側区域にグリッドを設定し拡張作業を行う。X軸U列方向とY軸20・28列方向を延長し、遺構・遺物の分布状況を確認する。また北西部に拡張作業を進める際、N-28、P-28・31、T-28グリッドで、第Ⅱ層上面において河原石を利用した。敷石群を検出する。13日~15日にかけて、降り続いた雪のため作業を中止する。

18日~25日 この期間も雨と雪のため作業が遅れる。さらに北西部へとグリッドを拡張する。層序はNo.35遺跡と同様で、遺構は検出されず。遺物の出土は、敷石群を中心として第Ⅰ層中から近世の土器片が数点出土する。20日から25日にかけて、Y軸U列方向・X軸20列方向の土層セクション、敷石群平面図の測図作業を行う。

#### 4 層 序

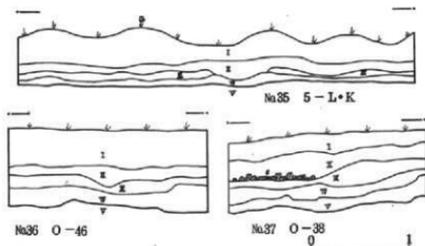
本遺構もNo.35遺跡とほぼ同様である。北側では、旧河川が東西に走っているため、第Ⅰ層下部より河原石が検出され、第Ⅱ層黒色土が厚く堆積している(第三十八、三十九図版)。

#### 5 遺構(敷石群)

P-28グリッドでは、大形のもので30~50cmの丸味をもった河原石を利用し、中央部が盛り上がる状態で規則的に敷きつめられている。N-28グリッドは西側、P-31グリッドは北側、R-28グリッドでは全体に、小さな10cm前後の小河原石が不規則な状態で検出された。プランは、長辺を東西方向にもつ不整形と考えられ、規模は不明である。時期は近世江戸時代以降とと思われる(第三十九図版)。

#### 6 遺物(土器)

P-28グリッド付近を中心に小破片が数点出土している。色調は黄褐色・赤褐色を呈し、焼成は良く固い。時期は、近世江戸時代の成島焼と考えられる。



第72図 八幡原No.35・36・37遺跡層序図

### 第5節 No.35, 36, 37遺跡の調査結果

昭和48年度分布調査によれば、3遺跡とも散布地となっているため、今回の調査は、その遺跡の範囲と遺構・遺物分布状態を知る目的として調査を進めた。地形的には、3遺跡とも同様であり、層序などはほとんどその差異は認められず、数回にわたって梓川の氾濫を受けていると考えられる。

遺物はほとんど検出されなかった。No.35遺跡で縄文時代後期の土器が出土したが、その状況は自然的なものなのか人為的であるかどうか不明である。No.36遺跡ではまったく検出されず、No.36遺跡の成鳥焼についてはその存在が不明なので、詳細は知り得ない。

遺構は、No.35・36遺跡とも検出され得なかった。No.36遺跡の敷石群については、詳細は不明であるため、その内容は検討中である。なおこの区域西半分は、今回の道路施工からしないため、今後調査を期待したいものである。

(佐藤 正俊)

### 第4章 No.39(細原前川原)遺跡

この遺跡は梓川の沖積段丘面にあり、川面との比高は約4~5mある。ここからは施軸土器が採取されており、歴史時代の集落址ではないかと考えられている。この遺跡の南東方向に接してNo.40の遺跡があり、出土遺物から古墳と考えられている。

調査は7月末からはじめられ、東西と南北方向に直角に交差する2m幅トレンチを設定した。(第四十図版)

遺跡西部のAトレンチは表土が30cm、その下が黄土色の砂質土層ですぐ下が砂層となり、遺物の出土はみられなかった。No.40に近いC・F・Gのトレンチは第I層の表土が25cm、II層の褐色土層が20cm、III層の黄色土層が20cmありその下は元の川原の礫層となっている。(第四十図版)。この地点も遺物、遺構はみとめられなかった。

東西南北に直角に交差する2m幅のトレンチを総延長135m設定し調査をしたが、遺物の出土はみられなかった。まだ調査がNo.39遺跡の全区にわたっていないことから結論を出すことはできないが、遺物、遺構が一つもみられなかったことから、集落跡とはみることができず、二次的な遺物の散布地といえる可能性が強いものと思われる。

(平吹 利数)

## 第5章 次年度への展望

件もあることであろうから100%をふくむということも言うべくして無理なことかもしれない。しかし、この緑地の中に含まれても遺跡保存率ができるだけ高くあってほしいものである。

一方、道路については、工業生産と搬出入の効率から、遺跡に対してかなり厳しい制約を打ち出すかもしれない。しかも物資運搬に際しての荷重性からいえば、敷地内では、埋蔵遺跡、遺物のそのままの保存は、殆ど期待することが出来ない。したがって道路敷地に含まれる遺跡部分は、記録にして保存するものも止むなきものかもしれない。昭和49年度にわれわれの選んだ調査地点の幾つかは、かくの如きものであった。これはいわば緊急度の最も高い調査といえるだろう。

第2年次以降における調査も、事情は同様であろう。幹線道路にかかる未調査遺跡は、今の時点でなお幾つかを数える。また団地内の公共的な意味のあるコミュニティセンターの修補地、ユーティリティ施設の予定地等に分布する遺跡もまたなしとしない。これらについては出来るだけ早い機会に調査を果したい。

工場敷地(180.1ha)の内に分布する遺跡も、基本的な造成工事にかかるものについては、調査すべきものと思う。造成工事の進むにつれ、更に新しく遺跡の発見されることもあろうし、また遺跡の面積が予想を上回って広大面積になる場合もあろう。調査すべき遺跡の数と面積を思えば、調査期間は決してゆとりあるものではない。しかし、この段階までは、われわれの調査団は責任を負うべきものと思われる。

(柏倉 亮吉)

八幡原中核工業団地の敷地内にある原始・古代の遠き祖(おや)たちの生活の跡。その或るものが昭和48年以前にいかにか調査されていたか、また48年の予備的分布調査による収穫はどうか、昭和49年度にはいかにか調査されたか、ということについては上章に述べた。

すでに記したように、この工業団地の面積430haをふくめて、付近一帯に分布する遺跡は44地点といわれている。そのうち団地敷地430haの中にふくまれる遺跡の数は、県文化課の分布調査によれば24遺跡である。この24遺跡の内には、調査発掘しなければならぬものもあろうし、しないままで保存し得るものもあるであろう。というのは、24遺跡が悪く工場施設のために潰滅される運命にあるとは限らない。そのうちの幾つかは、白日のもとに遺跡の原形をあらわされることもなく、地中にそのままの形で息づくこともあり得るだろう。それは次の理由によるからである。

米沢市に設けられた開発のための審議機関たる米沢中核工業団地委員会は、昭和49年6月の第6回委員会で、団地基本計画概要を決定した。その作製方針の3に「貴重な自然環

境及び文化財産等を極力保存する」、ということがうたわれている。

この作製方針に則って団地内の土地利用法も決定されている。その土地利用面積を第11表によって見れば次の通りである。

すなわち、敷地内に1925ha、9%では44.7%の緑地帯が予定されている。この緑地帯の面積の中では、遺跡があれば、それは破壊されることなく、できるだけ、そのままの状態でも保存されることが可能であらうし、またそのようになることが期待される。したがってこの緑地帯は、出来るなら重要な遺跡を包含しながら設けられて欲しいものである。もちろん、工場立地の他の条

第11表 八幡原中核工業団地内土地利用総括表

		面積 (ha)	比率 (%)
道 路		31.8	7.4
河 川		14.4	3.3
緑地系	施設緑地	63.4	14.7
	縦横緑地	18.8	4.4
	保全緑地	110.0	25.6
	小 計	192.2	44.7
工場敷地	工場内樹林地	57.4	13.4
	工場用地	122.7	28.5
	小 計	180.1	41.9
コミュニティセンター用地		8.6	2.0
ユーティリティ施設		2.9	0.7
計		430.0	100.0

図

版

---

昭和50年3月31日発行

米沢市八幡原中核工業団地造成予定地内  
埋蔵文化財調査報告書 第1集

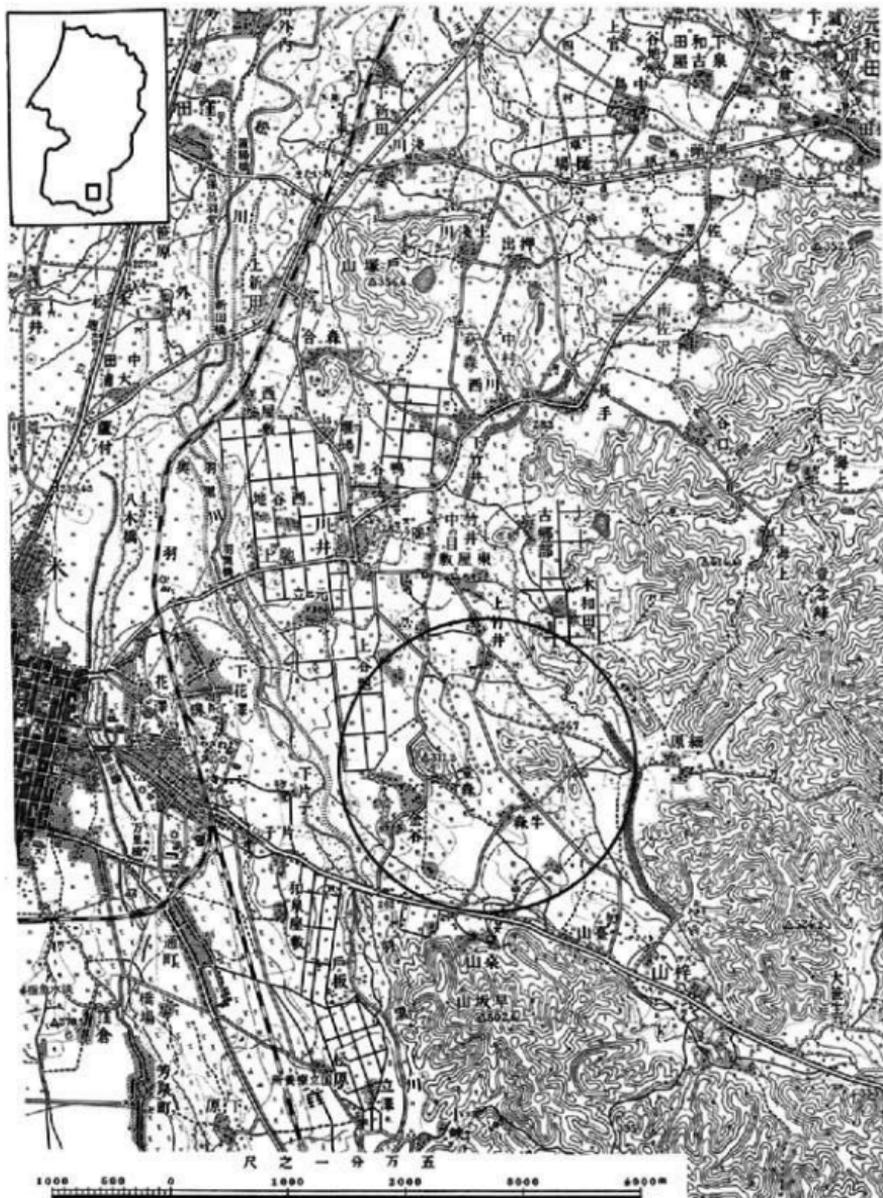
発行 米沢市教育委員会  
米沢市外ノ内22番地  
地域振興整備公団米沢開発所  
米沢市大字花沢574番地

編集 八幡原中核工業団地内遺跡調査団◎

印刷 株式会社よねざわ印刷  
米沢市松が峰3丁目1-26  
TEL 21-121270

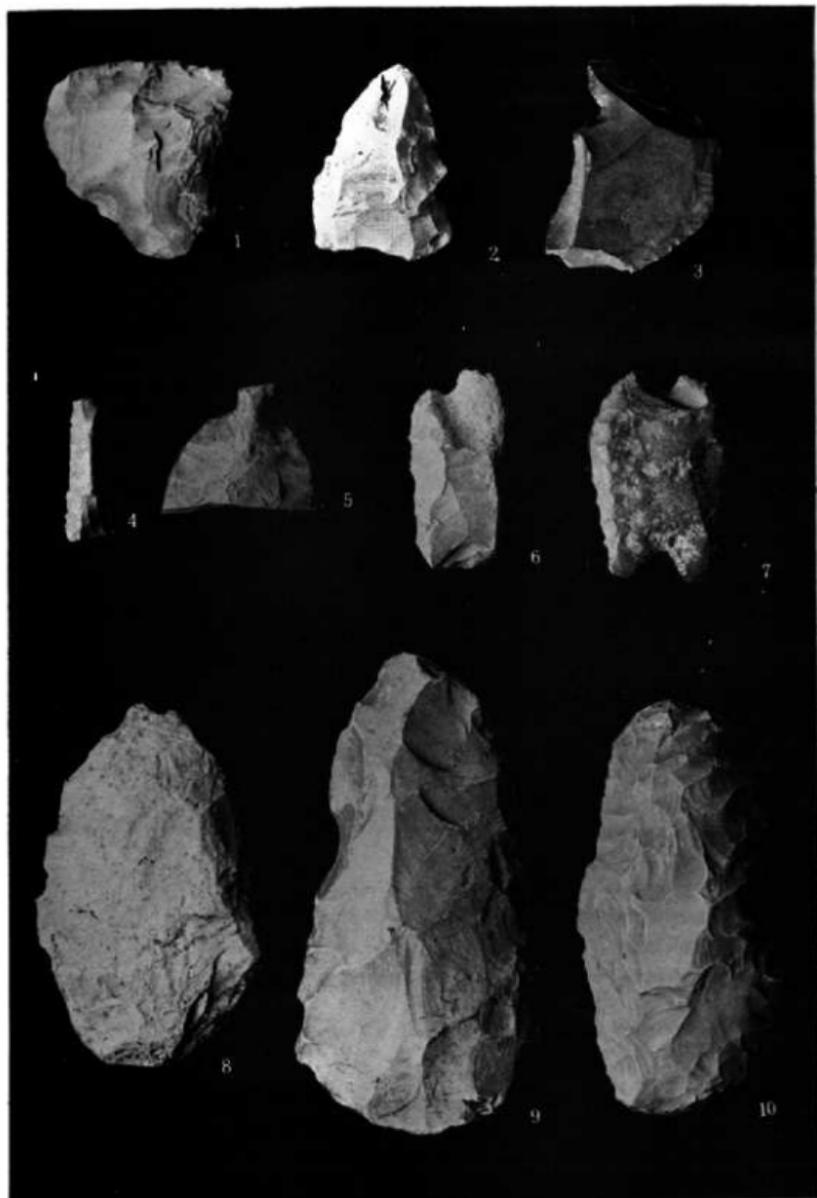
---

第一図版 米沢市八幡原遺跡群周辺の地形図

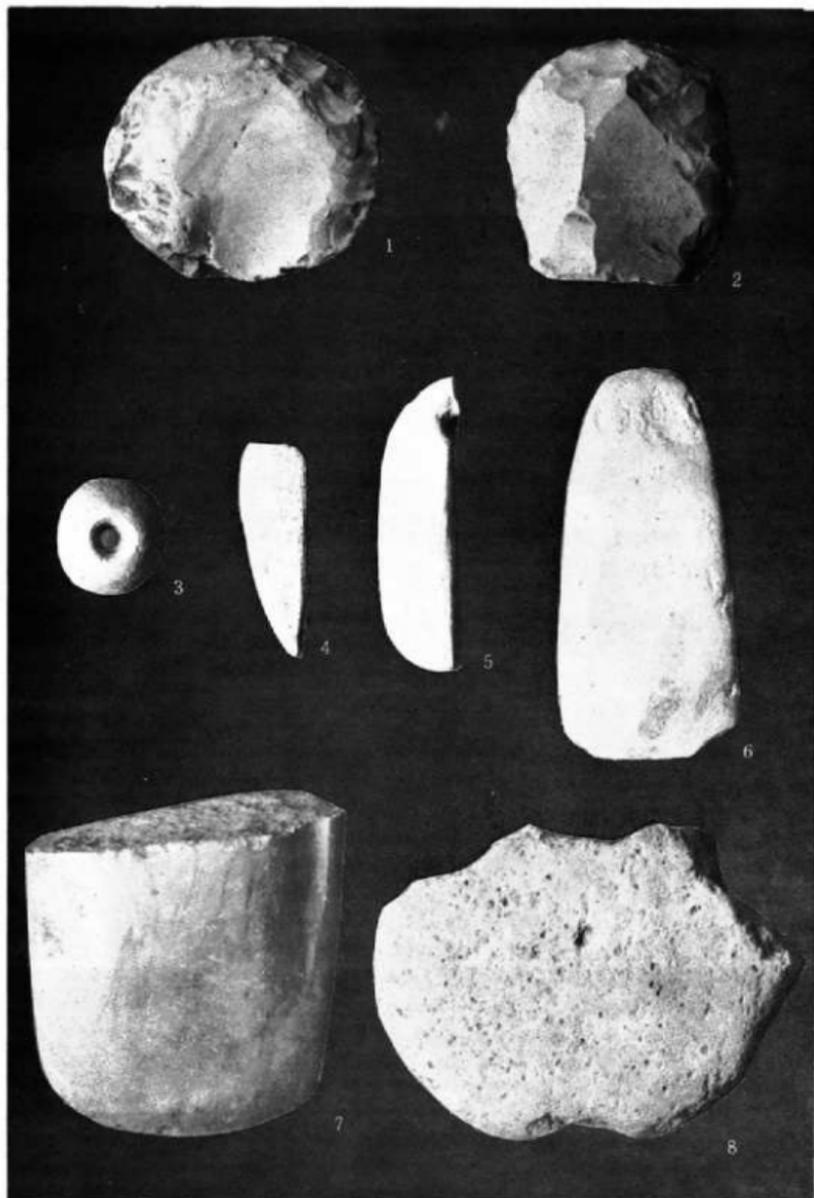


第二四版 米沢市八幡原遺跡群周辺の航空写真（上方が東、国際航空撮影）

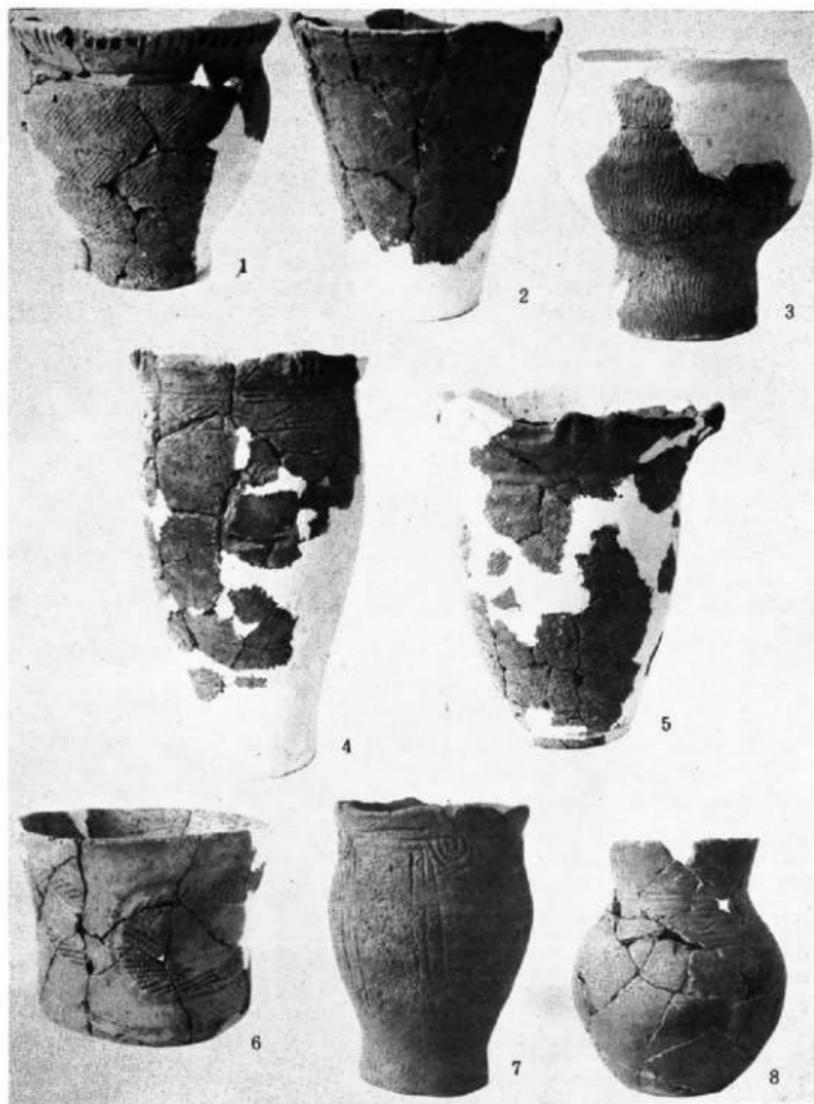




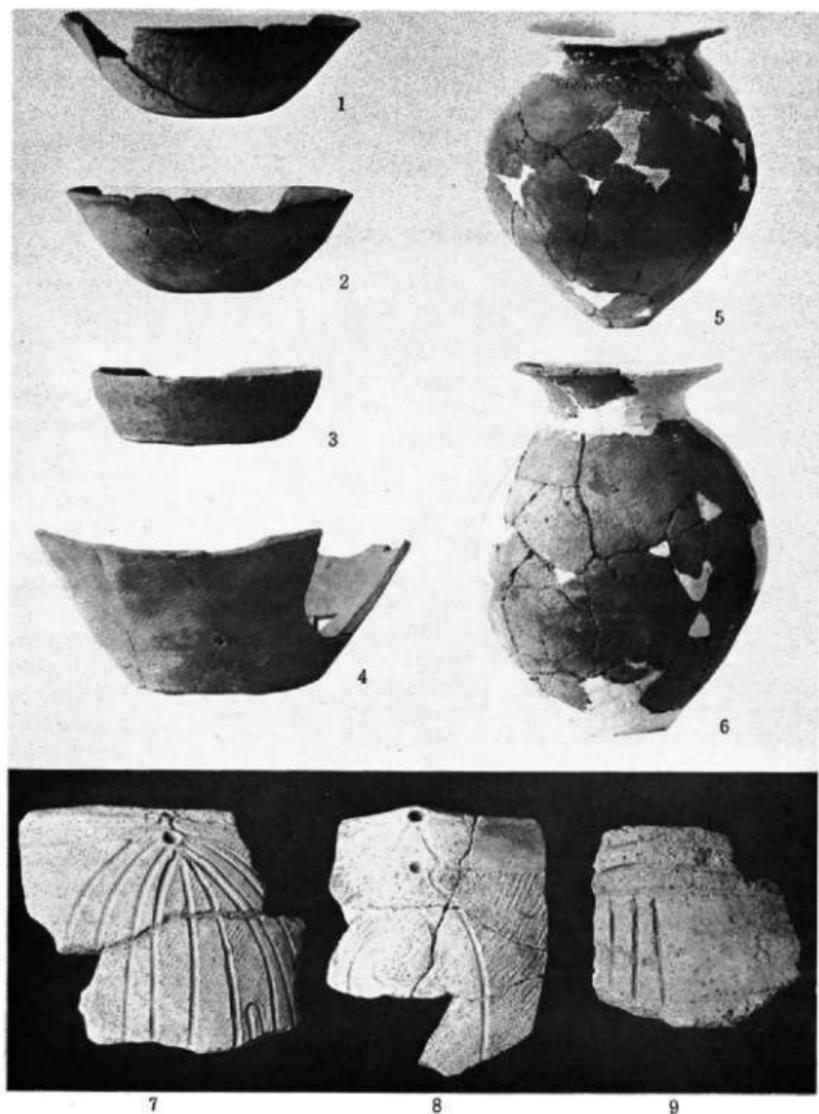
1 : No.1 遺跡 2・3・4・5・6・7 : No.25 遺跡  
8 : No.16 遺跡 9 : No.3 遺跡 10 : No.15 遺跡



1・3：No16遺跡 3・5：No25遺跡 4・6：No23遺跡  
7：No4遺跡 8：No10遺跡



1・2・3・4・5 : No.25遺跡 6 : No.16遺跡 7・8 : No.31遺跡

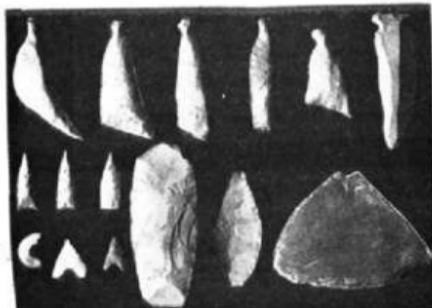
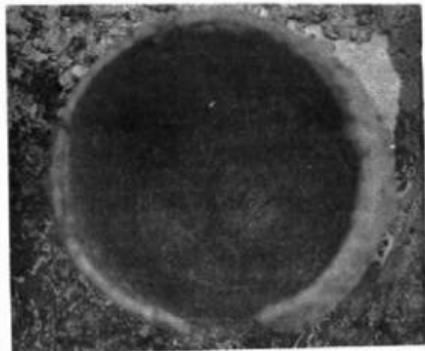


1・2・3 : No.34遺跡 4・5 : No.43遺跡 6 : No.30遺跡  
7・8・9 : No.31遺跡



▲ 1. 第1号住居炉

▶ 2 埋設土器内部の石組



3. No.26遺跡出土石器▶



▲ 4 D群3類土器(ビット4出土土器)

▶ 5 B群土器





▲ 1 遺跡近景



▲ 2 発掘風景



▲ 1 発掘区全景



▲ 2 第1号住居跡



▲ 1 A-4区Ib層 六角棒石の出土状況



▲ 2 B-4区Ib層 配石遺構



▲ 1 C-2区Ⅱb層 磨製石斧出土状況



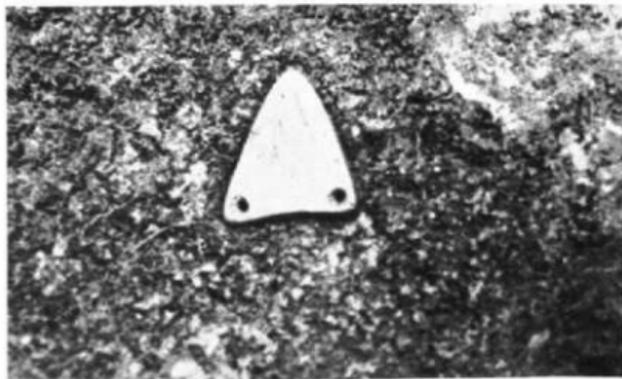
▲ 2 B-3区Ⅱa層 土鍾出土状況



▲ 1 B-5区Ⅱa層土器出土状況



◀ 2 B-3区Ⅲ層土器出土状況



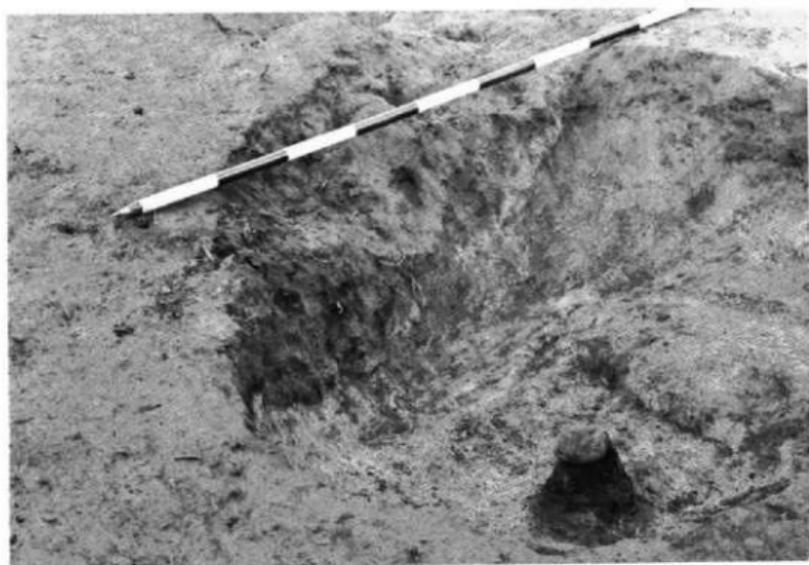
▲ 1 B-3区Ⅲa層 三角垂飾品出土状況



◀ 2 B-4区Ⅲb層 石鏃出土状況



▲ 1 1区グリッド設定状況



▲ 2 土 壌



▲ 1 溝状遺構



▲ 2 溝状遺構断面



▲ 1 遺跡近景



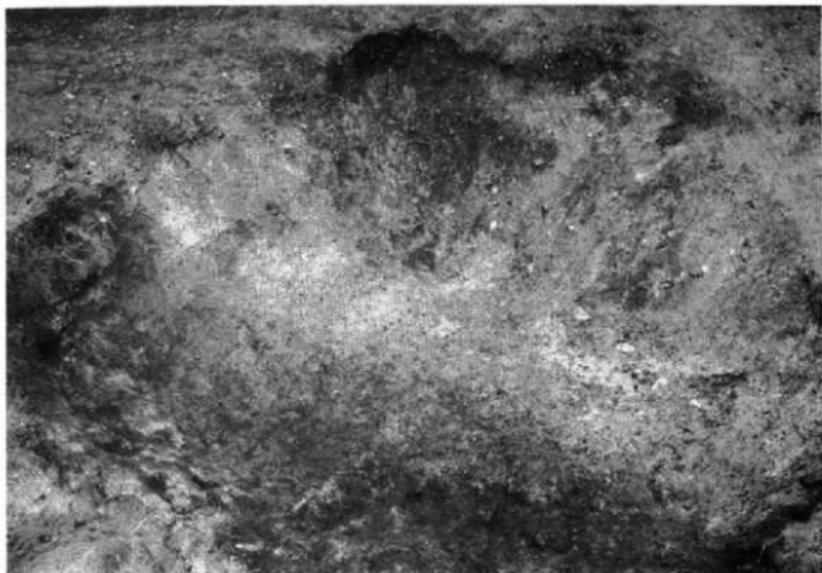
▲ 2 発掘状況



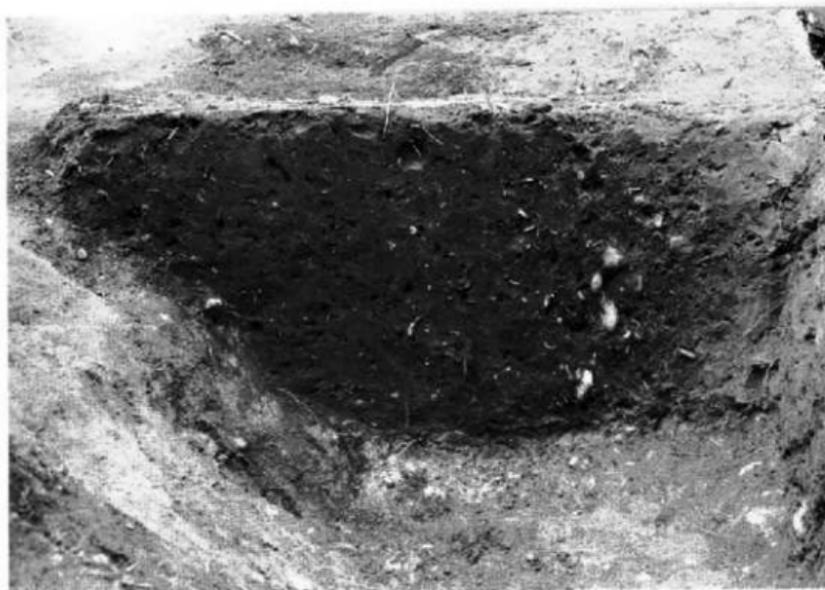
▲ 1 第11号土城発掘状況



▲ 2 第11号土城西側断面



▲ 1 第11号土坑東壁断面



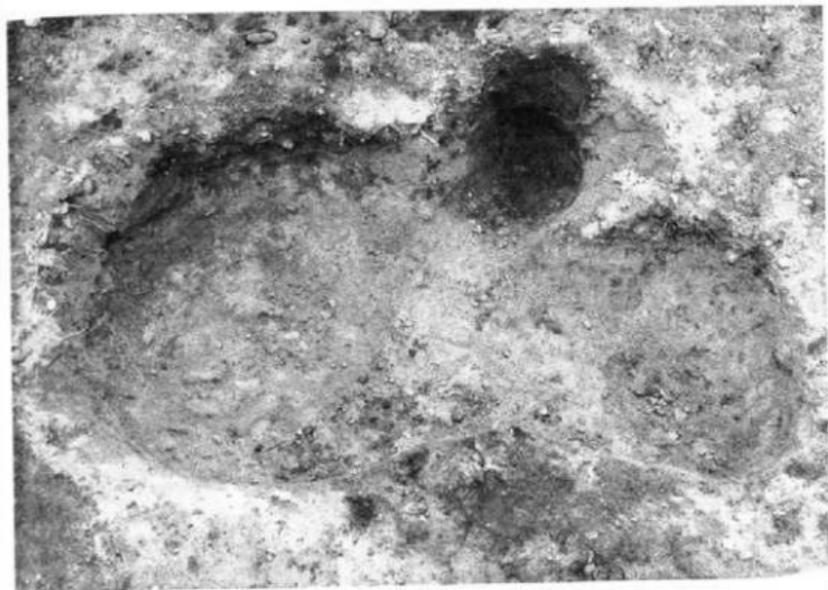
▲ 2 第11号土坑完掘状況



▲ 1 第19号土壇



▲ 2 第19号土壇断面



▲ 1 第14号土坑



▲ 2 第24号土坑



▲ 1 第15号土坑完掘状況



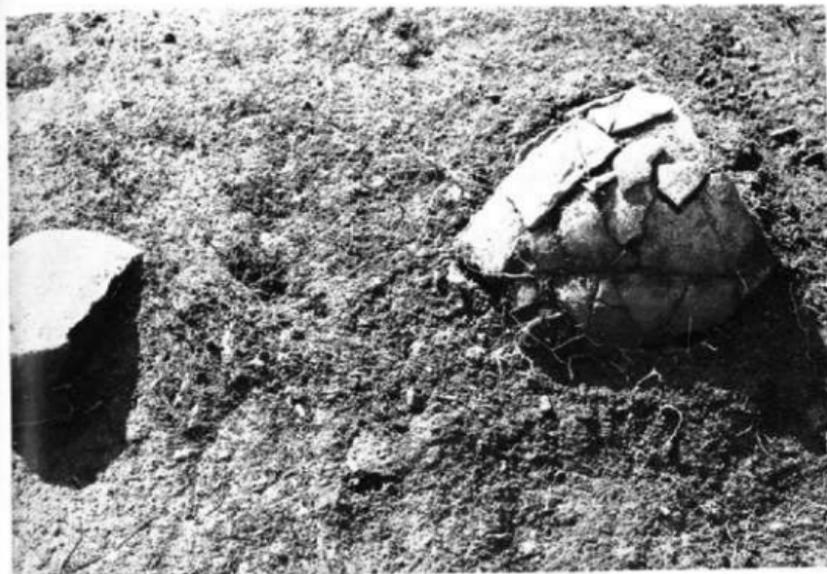
▲ 2 第15号土坑発掘前状況



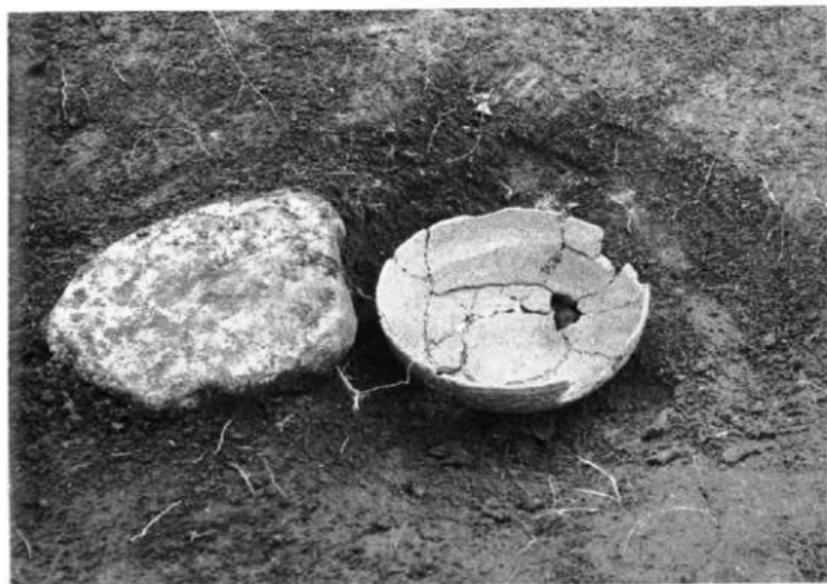
▲ 1 第1号住居跡



▲ 2 第35号土甕石組



▲ 1 第1号住居跡土器出土状況(1)



▲ 2 第1号住居跡土器出土状況(2)



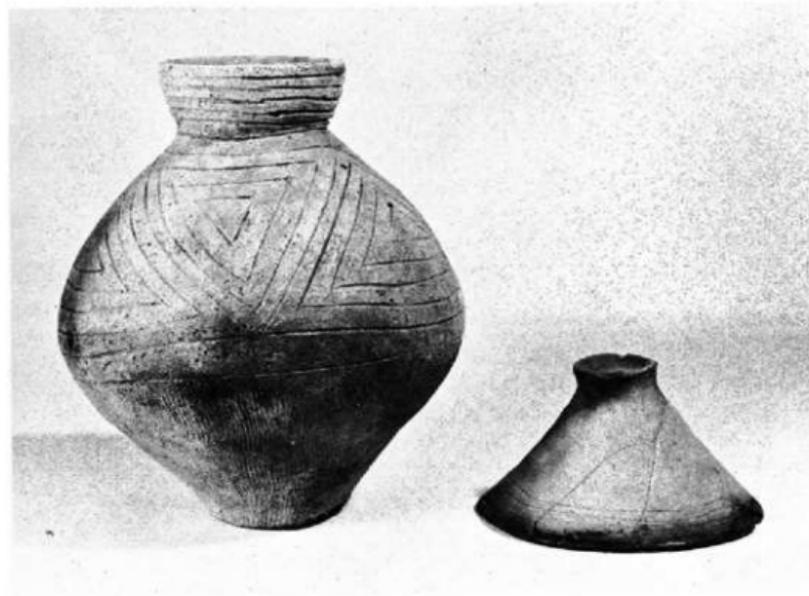
▲ 1 第1号集石遺構



▲ 2 第1号集石下土師器出土状況



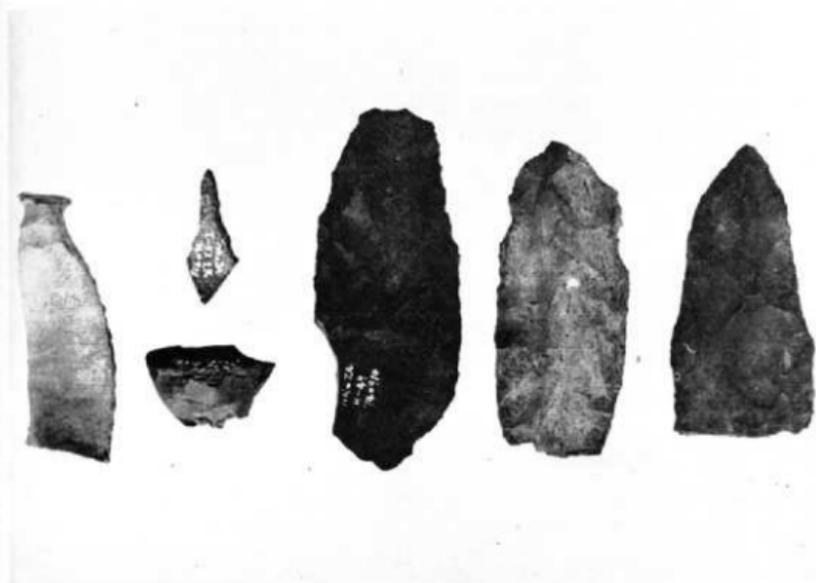
▲ 1 第1号集石下出土土器



▲ 2 篋描文の壺と蓋 高さ21.5cm 7.5cm



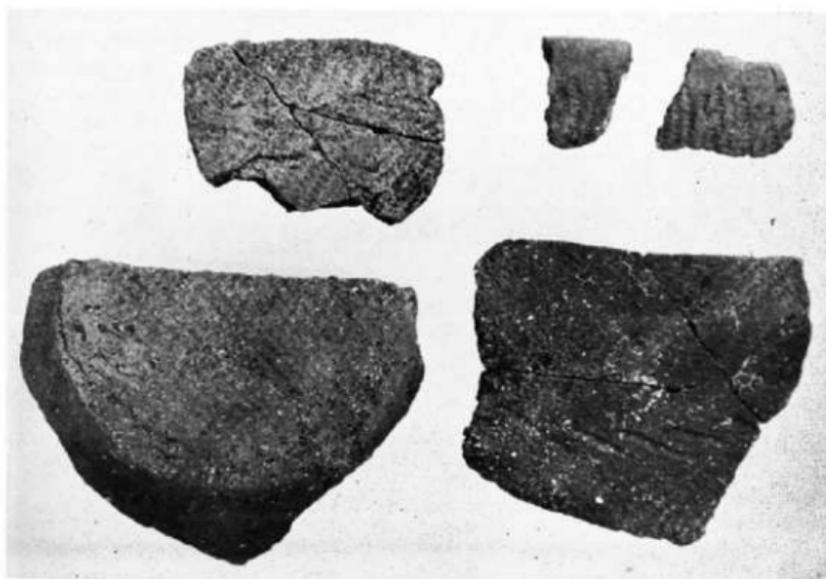
▲ 1 背 面



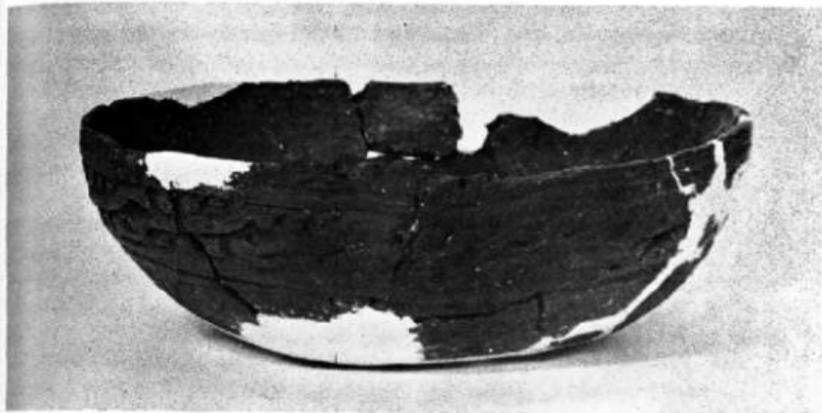
▲ 2 腹 面



▲ 1 早・前期縄文土器 (A・B類土器)



▲ 2 中・晩期縄文土器 (C・E類土器)



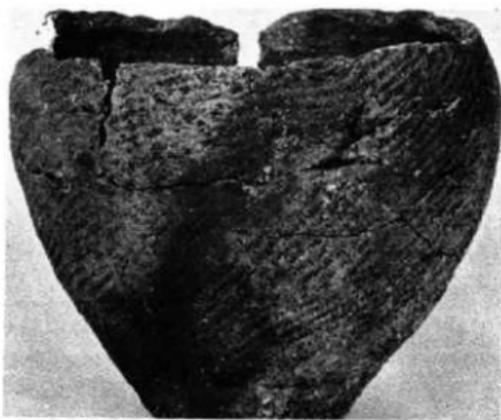
▲ 1 晩期縄文土器 (D類土器)



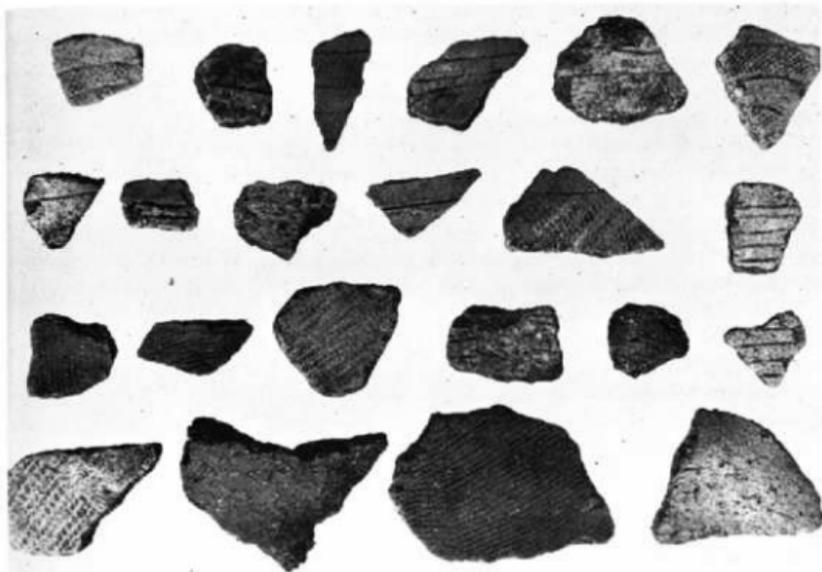
▲ 2 晩期縄文土器底面



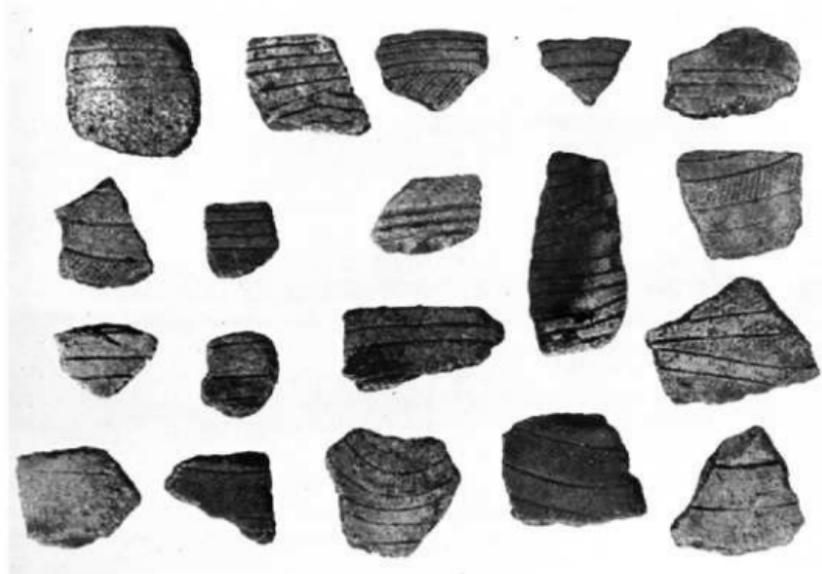
▲ 1 晩期縄文土器 (D類土器)



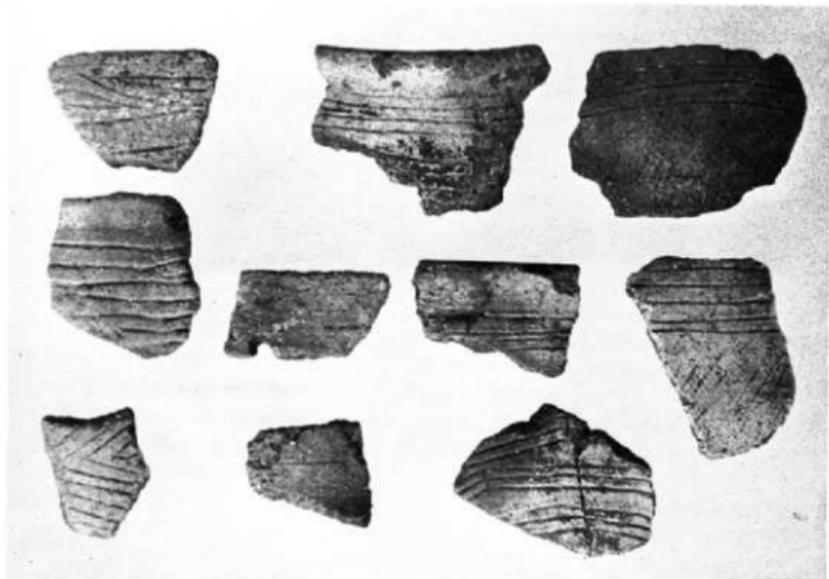
▲ 2 晩期縄文土器 (D類土器)



▲ 1 第11号土壌出土土器(1)



▲ 2 第11号土壌出土土器(2)



▲ 1 第1号土壙出土土器(1)



▲ 2 第1号土壙出土土器(2)



▲ 1 第1号土坑出土土器(3)



▲ 2 第1号土坑出土土器(4)

